

## 重点施策 4 教育環境条件の整備充実

### 【施策方針】

- 子どもたちにとってより望ましい教育環境の実現のため平成 24 年度に策定された八幡浜市学校再編整備実施計画に基づき、小・中学校の統合を検討、協議し、統廃合を進めてきた。新たに、今後 10 年間を見据えた八幡浜市学校再編整備第二次実施計画を策定し、引き続き、学校規模の適正化による教育効果の向上を図る。
- 科学的な知識、技能及び創意工夫の能力を養うため、理科教育備品の整備を図る。また、引き続き、教材、管理備品、学校図書などの学習環境の整備を図るとともに、健康及び環境保全上の効果を増進する。
- 市内の学校施設の多くは築後 30 数年が経過し、雨漏り、施設の老朽化、内外装の損傷が著しく、早急な対応を迫られている。また、安心・安全な教育現場を確保するため、耐震指標 IS 値 0.6 未満の非木造の学校施設の耐震化を推進する。
- 経済的な理由により就学が困難な児童生徒等を支援するため、就学援助事業及び育英事業の充実を図る。

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 学校再編整備計画の策定及び推進      ② 学校施設の整備充実
- ③ 教育機器の整備充実      ④ 施設の耐震化推進
- ⑤ 就学援助事業及び育英事業の充実

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 学校再編整備計画の策定及び推進

ア 全国的に少子化が進む中であって、八幡浜市も例外でなく園児、児童、生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進行しており、学級数の減少する学校や複式学級編成になる学校が増えている。また、校舎等の耐震化、施設設備の経年劣化問題などを抱えており、よりよい教育環境を整備・充実することは喫緊の課題となっている。

イ 平成 29 年 3 月に八幡浜市学校再編整備検討委員会より提出された答申書に基づき、八幡浜市学校再編整備第二次実施計画（案）を作成し、統廃合計画の対象校となっている学校の保護者に対し、説明会を実施した。また、教育委員会では 9 回の協議検討を重ね、平成 30 年 1 月に実施計画の議決を行い、同年 2 月に策定した。策定後、統廃合の対象校となっている保護者に対し、保護者説明会を継続して実施していく。

##### ② 学校施設等の整備充実

（小学校）市内小学校遊具改修工事他 12,450 千円、（中学校）保内中学校バックネット及び防球フェンス等改修工事他 17,796 千円の営繕工事を行った。

③ 教育機器等の整備充実

- ア 理科教育備品の整備（小学校）8,061千円（1/2国庫補助）
- イ 教材・管理備品・学校図書等の整備 16,952千円（前年度 16,891千円）  
（小学校）9,766千円 （中学校）7,186千円 （アの理科教育備品を除く）

④ 施設の耐震化推進

白浜小学校東校舎の耐震補強設計委託業務を実施した。

⑤ 就学援助事業及び育英事業の充実

ア 就学援助事業

要保護・準要保護児童生徒に対し、学用品、修学旅行等の費用の支給を行った。  
また、新入学児童生徒に対して支給している「入学準備金」については、平成29年度新入学児童生徒から、入学前の1月～3月に支給を開始した。

イ 育英事業

八幡浜市育英会奨学資金の状況

学資金貸与者 16名、貸付額 5,616千円。

返還者 82名、返還額 9,475千円

【事務事業点検評価委員意見】

- 教育環境の整備において耐震化への対応は急務である。しかしながら、限られた財源の中でより効果的な取組を進めなければならず、厳しい少子化を踏まえた学校再編を含めて、子どもにとってより良い教育環境を設計してから行うのが最良ではないかと考えられる。  
一方で学校は、いろいろな身体的個性を持った子どもたちが生活する場である。さらに、いざという時には避難所としての任務も負い、高齢者や障がい者など多様な人々が集う場所となる。自然災害が多発している昨今の状況や予想されている東南海大地震などへの対応だけでなく、財政負担も考慮する必要はあるが学校環境のバリアフリー化をより積極的に図るなど、学校のインフラ整備にも努めていただきたい。
- 教育機器の充実、子どもたちの学びをより良いものとするために不可欠である。IT関連機器のハード・ソフト両面での支援はもちろんのこと、学校図書の充実を最優先に取り組んでいただきたい。どちらも多額の費用が必要となるため、計画的に取り組むことが必要であろう。また、IT関連機器では関連するハード・ソフトともにその進化が激しいため、何をどのレベルまで充実させるか十分検討する必要があると思われる。
- 児童生徒の家庭間の経済的な格差は広がっているように感じられる。いろいろな支援が行われているが、現時点で大きな社会問題に発展しているのが若者の奨学金返済と親から子への貧困の連鎖である。奨学制度については、社会情勢を見極めながら、貸与型と給付型の併用など、可能性を検討する必要があるはしないか。また、貧困の連鎖を断ち切るために子どもが属する各家庭への社会福祉的な支援に関わる部署（担当者）と特別支援関係とのチーム編成による対応など、更なる連携強化が不可欠ではないかと考える。

【自己評価】

- 「八幡浜市学校再編整備第二次実施計画」の策定に向け、保護者に対し計画案の説明を行ったり、パブリックコメントで広く意見の募集を行った。学校は、地域との繋がりも深く、統廃合について、保護者、地域住民を含め、さまざまな考え方があがるが、まずは児童生徒の安心・安全な教育環境の整備を第一と捉え、耐震基準値以下である小・中学校の保護者及び地域の方に理解を得られるよう協議を継続していきたい。また、子どもたちが多くの友達との触れ合いの中で、成長しあえる環境づくりを念頭に計画を進めていきたい。
- 学校施設については、毎年度実施している学校視察時に、修繕要望を集約し計画的に修繕を行っているが、老朽化により修繕が必要とされる学校施設が増えており、限られた予算の中から、緊急性のある修繕を先行して対応している現状である。また、厳しい財政状況の中ではあるが、有用な補助金等を活用し、いろいろな身体的個性を持った児童生徒が問題なく学校生活を送るためや、災害時に高齢者等が避難する避難所として、学校施設の機能強化を図っていくことも今後の課題である。引き続き安心・安全な教育環境の保持に努めたい。
- 児童生徒の家庭間の経済的格差を埋めるべく、国の高校生等奨学給付金での教育費支援や各大学での給付型奨学金制度が拡大されている。そのため貸与型奨学金制度への利用が減少しており、新たなステージの支援を検討する必要性を感じている。貧困の連鎖を断ち切れるような支援を他部署とも連携して検討していきたい。